

学位論文審査の結果及び最終試験の結果の要旨

学位申請者氏名	杉江 美穂	
学位論文名	歯周組織の状態とフレイル、ソーシャルキャピタルの関連 (The involvement of the condition of periodontal tissue and social capital in frailty.)	
論文審査委員	主査：	松本歯科大学 教授 増田 裕次
	副査：	松本歯科大学 教授 音琴 淳一
	副査：	松本歯科大学 准教授 中村 美どり
	副査：	
	副査：	
最終試験	実施年月日	2019 年 2 月 26 日
	試験方法	口答 + 筆答
学位論文の要旨		
<p>【目的】 高齢者が要介護状態になる前の状態としてフレイルがある。まだ健康な状態に戻れるフレイル期で衰弱を止めておくことが、今後の医療において大変重要となる。ソーシャルキャピタルは社会組織の資源とされており、健康寿命と深い関係があると報告されている。そこで本研究では歯周組織の健康状態とフレイルが相関し、フレイルにより個人のソーシャルキャピタルが低下するという仮説をたて、これを検証することを目的とした。</p> <p>【方法】 72名の外来通院中の歯周病患者を評価したが、フレイル評価項目数の3以上は1名、2は4名、1は22名であり、フレイルと判定されるものは1名のみであった。そこで、フレイル評価項目数が1ないし2のものをプレフレイルの被験者とした。プレフレイルを従属変数として、二項ロジスティック回帰分析を施行した。あらかじめフレイルに与える影響が大きいと思われる項目(年齢、性別、BOP 部位率、平均 PD、平均 CAL、平均歯肉退縮量)についてはその影響を補正した。</p> <p>【結果と考察】 プレフレイル状態と現在歯数、ソーシャルキャピタル評価のアンケート項目のうち「口腔内の健康状態」に関して相関傾向が認められ、プレフレイルが悪化すると現在歯数が増加し、アンケートにおける口腔健康状態が悪いとプレフレイルが悪化した。 本研究の特色、限界として、被験者は平均年齢：65.9歳と、フレイルが問題となる高齢者の中では若年であること、全員が外来に通院できる体力があったこと、こうした選択バイアスが本研究結果に影響を与えている可能性が考えられる。よって、本研究結果のみで現在歯数、口腔内の健康状態とプレフレイルの関連について結論を出すことはできない。さらに本研究は横断研究であるため現在歯数、口腔内の状態の主観的評価とプレフレイルの間の因果関係を証明することは不可能である。今後、被験者数を増やして統計学的パワーを得る必要、そして縦断研究が必要であると考えられる。</p>		
学位論文審査結果の要旨		
歯周組織の状態、フレイルやソーシャルキャピタルの状態の変化の関係を知る必要があり、これらの関係を明らかにすることは、歯周組織の状態をチェックすることで、フレイルや		

(様式第 13 号)

ソーシャルキャピタルの低下を知る手がかりとなる可能性を見出すことになる。新しい試みである。

72名の外来通院中の歯周病患者を評価したが、フレイル状態と認定された人は1名であった。プレフレイル26名と非フレイル45名を対象に研究を行っている。本研究では、フレイルと歯周組織の状態およびソーシャルキャピタルの関係を調べている。統計学的手法を用いているが、研究の目的に沿った適確なものであると判断できる。

結果としては、プレフレイルが悪化すると現在歯数が増加し、アンケートにおける口腔健康状態が悪いとプレフレイルが悪化するというものであった。今回、研究対象者が全身的にも健康であり、さらに、歯周組織の状態も良い状態を保たれた方が多かったので、一概に本研究結果を一般に当てはめることができないが、本論文は今後の研究の発展のための一助となると考えられる。本研究を発展させることは歯科医療の発展に非常に有用なものとなると考えられる。

以上より、申請者は博士課程修了者として十分な知識と技能を修得していると判断され、本論文は学位論文に値するものと認める。

最終試験結果の要旨

申請者の学位申請論文 歯周組織の状態とフレイル、ソーシャルキャピタルの関連
(The involvement of the condition of periodontal tissue and social capital in frailty.) を中心に、この研究に関する基礎知識、論文の内容に関わる事柄、研究成果などについて、口頭試問を行い明確な回答が得られた。一部、不足分については筆頭という形式で知識を確認し、明確な回答が得られた。

質問事項は以下の通りである。

1. ソーシャルキャピタルの定義について
2. 口腔内での健康状態というアンケート項目が、なぜソーシャルキャピタルのアンケート項目に該当するのかについて
3. フレイル項目（歩行速度、握力、忍耐、身体活動、栄養）のうち、本研究における偏りについて
4. 横断研究の定義について
5. 次の段階としてどのような被験者を対象に行えば良いのかについて
6. 本研究の発展性について

以上より、本審査会は学位申請者が博士（歯学）として、十分な学力および見識を有するものと認め、最終試験を合格と判定した。

判 定 結 果

合格

不合格

備考

- 1 学位論文名が外国語で表示されている場合には、日本語訳を（ ）を付して記入すること。
- 2 学位論文名が日本語で表示されている場合には、英語訳を（ ）を付して記入すること。
- 3 論文審査委員名の前に、所属機関・職名を記入すること。